

## <シェアリングサービスの活用法>

FPネットワーク神奈川会員 福島 佳奈美

カーシェアリングやシェアハウスなど、モノを買わずに「シェア」するサービスが増えていますが、みなさんは利用されたことはありますか？

最近では、モノや資産のシェアだけでなく、家事や特技などのスキルや体験をシェアするサービスも注目を浴びています。今回は、シェアリングサービスの活用法をお伝えします。

### ■シェアリングサービスとは？

シェアリングサービスは、カーシェアリングやシェアオフィス、シェアハウス、シェアサイクルなど、様々なサービスに広がりを見せています。このように資産や場所などを共有し利用するサービスをシェアリングサービスといい、この仕組み自体のことをシェアリング・エコノミーともいいます。

シェアリングサービスは、これまで企業が主体となって運営するものが主流でしたが、最近ではスマホアプリによる個人間でのシェアリングサービスを提供するサイトが急速に増えています。アプリを介して借りたい人と貸したい人のマッチングを行うことがリアルタイムに簡単にできるようになったためです。

### ■シェアすることで利益を得ることも

シェアリングサービスでは、貸す側に回ることで利益を得ることもできます。週末にしか使わない車を貸し出したり、空いている部屋を貸し出したりする方法もありますが、そういった「資産」がなくても、料理や掃除などの家事、語学やスポーツなどの「スキル」などを提供することでも利益を得ることは可能です。シェアリングサービスのアプリでは、シェアしたいものやスキルなどをインターネットのサイトに登録しておく、利用したい方から申し込みがあり、条件が合えば成立するという仕組みです。料金は、サービスの提供者が設定するようになっています。

特別なスキルが無くても、増加する訪日客に街案内をしたり、日本的な文化である書道や将棋を教えたりといった「体験」をしたいというニーズもあります。こういったことは若い人だけでなくシニア層でも様々な人生経験を生かしながらサービスを提供することができますので社会と関わりながら収入を得ることも可能です。

## ■自治体も注目するシェアリングサービス

少子高齢化で財政も厳しくなっている地方自治体では、介護や子育てなどのサービスを自治体の力だけで維持するのは難しくなっています。そこで、公共交通手段の維持が困難になっているエリアでのライドシェアサービス活用、観光業の活性化、公的不動産の活用など公共サービスの一部をシェアサービスで補う動きも見られます。

このように、シェアリング・エコノミーの仕組みを地域に導入して民間との「共助」により課題解決を目指そうとする自治体が増えています。業界団体であるシェアリング・エコノミー協会はこうした自治体のことを「シェアリングシティ」として認定する制度を行っていて、全国に広がりを見せています。シェアリングサービスは、地域の課題を解決する手段にもなるともいえます。

## ■シェアリングサービス利用しても大丈夫？

シェアリングサービスは利用したいと思っても、知らない人に場所や車を貸したり、会っていきなり何かを教えたりするのは不安だという方もいらっしゃるでしょう。

そのような場合、マッチングサイトでの口コミを参考にしてみましょう。例えばカーシェアのマッチングサイトでの口コミでは、『事前連絡、当日の受け渡しもスムーズだった』『車を綺麗に使ってもらった』というような書き込みが見られます。利用者の評価が反映されるシステムですので、参考にすることができます。

個人間の信頼関係が前提で成り立つサービスの、利用する側、提供する側どちらになっても気持ちよくサービスを利用したいですね。